

8月25日(木) 夏休み明けオンライン全校集会

校長 坂本 康晴

Good morning, everyone. Today school starts again. I'm very happy to talk to you. How did you spend your precious summer? I hope you have seen, you have heard, you have touched something very valuable, and you've grown up very much this summer. Now, it's time for you to try your power and challenge your potentials. Good luck, all of you!

みなさん、おはようございます。夏休みが終わり、いよいよ学校が再開します。猛暑とコロナ禍のため、今日の集会はオンライン開催としますが、今朝、みなさんの元気な笑顔を見て大変嬉しく思っています。

みなさんはこの夏をどう過ごしたでしょうか。休みに、みなさんに3つのことに気をつけて欲しいと話しました。覚えていますか。

まず、振り返りと改善に取り組むこと、次に、健康と安全に気をつけること、そして、進路目標実現に向けこの夏にしかできないことに取り組むことでした。この夏がみなさんにとって「豊かな夏」になったと願っています。

さて、早いもので令和4年度も間もなく折り返しです。この時季はみなさんにとって大変重要な時季であることを自分事として理解してくれているでしょうか？

先週の登校日、基礎力診断テストの学習アンケートの時間に教室の様子を見せてもらいました。最後まで回答に取り組んでいた人たちがたくさんいました。事前に配布されたワンウイークトライアルにもしっかりと取り組んでくれていただろうと感じました。一方、時間中に机にうつ伏せになり監督の先生からの声かけでようやく顔をあげていた人たちも見かけ、大変残念に思いました。たまたま体調が悪かったのかもしれませんが、しかし、「一事が万事」と言われます。小さな事、目の前の身近な活動にきちんと取り組めなければ、大き

なこと、将来の目標などをかなえることはできません。まずは、今日の基礎力診断テストに最後までしっかり取り組んでください。

目の前の基礎基本を大切にすることが、5年後、10年後の大きな夢を叶えることにつながります。自分を大切にし、努力を積み重ねるれば、5年後、10年後、必ず夢が叶います。自分を信じ、高校生活を送って下さい。

これから3年生は、人生を大きく左右する重大な時期を迎えます。就職試験まであと一か月を切りました。就職希望のみなさんは、残された時間を使って提出書類の完成や面接練習など最後の最後まで全力で取り組んで下さい。

一方、進学希望のみなさんは、間もなく始まるAO入試や推薦入試、1月の大学入学共通テストや私大一般選抜等、様々なスタイルの入試が皆さんを待っています。それぞれが目指す試験形態に合わせて、先生方の指導や助言に従い、焦らず、着実に学力等を向上させ、夢実現に向け準備を進めて下さい。

2年生、1年生のみなさんは、受験や学校祭など人生や学校生活における大きなイベントに真剣に向き合う3年生姿を見て、卒業後の自分自身の進路について、自分で考え、踏み出す時期です。自分が3年後、5年後にどのような自分でありたいか、仕事をとおしてどのように社会に貢献したいか等を具体的に思い描きながら、毎日の学校生活で自分にできることに確実に取り組みながら、皆さんが巖木高校をもっと元気に、もっと盛り上げて下さい。

最後になりますが、新型コロナウイルスの一層の感染拡大の中ですが、これからの時期は3年生の受験、2年生の修学旅行、そして体育祭や文化祭など、大きなイベントが予定されています。皆さん一人一人が、自分自身を守るため、そして大切な家族や友人を守る

ため、感染防止のための強い自覚と責任ある行動が求められています。残暑と新型コロナウイルスに負けず、充実した学校生活を通して、これから秋にかけてさらに成長してくれることを心から期待しています。

That's all for today. Thank you for listening.

(1400字+70words)

この後の内容は、全校集会では話していません。生徒のみなさん、是非、この後も読んで下さい。

さて、みなさんにはピンと来ないかもしれませんが、今年2022年令和4年は、日本にとって1945年昭和20年に太平洋戦争が終結して77年目、昭和47年1972年5月15日に沖縄が日本に復帰して50年目となる大きな節目の夏です。英語で言う一世代”One generation”が約30年と言われますので、終戦から2世代以上、沖縄復帰から2世代ほどの月日が流れました。みなさんのお父さんもお母さんも、おじいさんも、おばあさんもだれも戦争を体験した人がいないかもしれませんね。私も直接は戦争を知りません。その年、私はまだ9歳で沖縄が日本に復帰したということの記憶はなんとなくあるものの、それまで沖縄の人たちがどのような苦労を背負っておられたのか、まったく知りませんでした。

この夏、太宰府市にある九州国立博物館で開催されている沖縄復帰50周年記念特別展「琉球」を見てきました。古代の琉球から現代の沖縄まで、波乱に満ちた琉球、沖縄の歴史の一部に触れる機会がありました。2019年10月に沖縄の首里城が火災に見舞われたことを覚えていますか。私は偶然そのわずか2週間ほど前に沖縄を訪れていました。早朝のテレビニュースで火事の様子を伝える映

像をうそだろうと思いながら見ていたことをはっきりと覚えていません。

図書館には「渚の蛍火」(坂上泉)という、沖縄返還前夜の混乱を舞台としたミステリー作品が入荷しています。当時の沖縄の人たちの思いや苦しみを知りたいと思った人は是非読んでみて下さい。

しかし、75年前には現在とは違う、私たちが知らない現実があったのです。年齢的にはみなさんと変わらないくらいの若者がたくさん、たくさん、戦争で命を落としました。私たちが暮らしている毎日はその尊い犠牲の上に成り立っているのです。

今年は新聞やテレビで、戦時中の様々なことが報道されています。私たちが知らない事実を知ること、その事実から私たちが感じることに、そしてそのことから私たちがどのように行動するかが大切です。これからも新聞やテレビの報道に注目し、命の尊さ、平和の大切さについて考えて下さい。